



かれているため荷物がたくさんある。その為、車いすの仲間が多いので部屋を自由に移動できない」などの課題がありました。川口改善により移動できる空間ができました。人と物の密度が緩和されました。これにより、部屋の中を一人で移動できる仲間が増えました。周りを気にせず自分の行きたい場所に行く事ができるようになりました。2つの部屋を仕事の場所とリハビリの場所にしました。日中活動の内容により使う部屋を決めるようにし、リハビリに必要な器具などはリハビリ室にまとめるなどしました。しかし、じゅうに班の日中活動が活発になってきた事で問題が生じました。作業する場所が思つたより狭いという事でした。これを解消すべく、2つの部屋を仕事の内容で使い分ける取り組みが始まりました。リハビリの時間以外は上手く2つの空間を使う事にしました。

織りの部屋と絵画の部屋を作り、2つの部屋で同時に異なる仕事を行う活動が始まりました。

サンだいち班—自分たち専用の  
部屋ができた



緒にいるという印象が伝わってくるのです。自分たちの居場所を支えにしている、拠点にして他の場所に出向く姿がありました。班の仲間の存在を意識しているのだと伝わってき

豊かで幸せになれる実践  
仲間とともに

緒にいるという印象が伝わってくるのです。自分たちの居場所を支えにしている、拠点にして他の場所に出向く姿がありました。班の仲間の存在を意識しているのだと伝わってきました。

豊かで幸せになれる実践を  
仲間とともに

川口改善が完了した現在、3つの班の仲間の様子は全体的に穏やかに過ごしていると感じます。しかし、当初は改善がされた事はとても嬉しそうにしていましたが、やはり新しい事ばかりで、不安や緊張があり実際に落着かない仲間もいました特に重度の知的障害の仲間や自閉が強い仲間にとつては環境の変化は影響が大きく辛い変化でした。それにも関わらず、大きく揺れなかつた、崩れなかつた要因として、一人ひとりの頑張りもありますが、いつもど変わらない仕事と仲間集団があつた事が大きな柱となつたように感じます。「みんなを意識して過ごしていく」事が大きな柱となつたように感じます。「みんなを意識して過ごしていく」と再認識したと同時に個を支える仲間集団が育つてゐる事に感動しました。1人では難しく、不安だけど、「みんなと一緒にだから出来るみんながいれば何とかなるさ」という心境。自分たちで立つ事ができる力がある事を今回の川口改善で再認識する事ができました。今回の改善でハード部分が改善されました。これからは内容が問われてきます。豊かで幸せになれる実践を仲間と共に積み重ねていきたいと思います。

おひさま通信

## 改善後の様子 その成果の紹介

- 川口太陽の家 -

平成2年より川口太陽の家の改善事業の検討が始まり、そのすべてが平成28年の9月の竣工式をもって終了しました。老朽化による不具合の解消や建物を使う上での不便さの解消、同時に仲間にとつて適切な広さや必要となる物の検討がなされました。これらに加え、障害の特性に配慮した建物である事や実践を根拠にした建物になるよう議論を積み重ねてきました。そして、みんなの夢や願いが込められた新しい川口太陽の家が完成しました。長い時間をかけ、みんなで作り上げてきた建物で日々を過ごす事ができる幸せを感じています。

で我慢できず毎日ケンカしていた仲間たちがお互いに居場所ができた事で気にしなくなり、争いごとが無くなりました。ちょっと余裕ができたようです。場所へのこだわりで作業室に行かれなかつた仲間が、改善により毎日作業室で仕事ができるようになりました。物理的な変化が今までの課題を一気に解決してくれました。

ゾーニングによる、  
わかりやすい空間づくり



つた」「食堂がゆったりとしている」「車いすのままでも使える洗面所ができる」「雨漏りが無くなつた」など様々です。今まで我慢していた事困っていた事が仲間のみんなにとつて当たり前に出来る瞬間となりました。どの仲間も嬉しそうにしていました。建物などのハードの問題が原因となつた仲間同士のトラブルやこだわりも建物の改善により解決できる事が増えました。既存の環境の中で我慢できず毎日ケンカしていた仲間たちがお互いに居場所ができた事で気にしなくなり、争いごとが無くなりました。ちょっと余裕ができるようになりました。場所へのこだわりで作業室に行かれなかつた仲間が、改善に

の作業室、真ん中はトイレ、左側には食堂などを配置しました。これにより自分たちの仕事場はどこに行くとあるのかが整理されました。出勤すると真っ先に自分の部屋に行く事ができ、迷う仲間はいません。左右のゾーンに導いてくれるような天井照明の配置も仲間の動線を補助してくれています。各班の作業室が隣り合わせになり、人の往来が増えることを見越して2.3mの廊下の幅をつくりました。「廊下で寝っていても大丈夫。車いすの仲間もすれ違える広さ」を大切にしました。実際の状況は多くの人が通つても数名が廊下に座つていても安心して歩ける十分な広さでした。

仲間の動線が部屋の作りや配置に反映されているので、移動はスムーズ且つ、余裕ができました。机なども的確な配置となっています。周りの人と干渉しない絶妙な間隔が存在しています。この間隔が仲間の意欲につながっているようです。ステンドの作品の保管や展示の課題はロフトスペースに大きな作品を保管する事や外からも見えるようなスペースを確保した事で、展示と保管を同時に行えるようになりました。また、部屋にはあおぞら専用の水場や給湯施設があり、作業室で一連の作業がすべて完結できるようになつた事は仲間の作品作りに大きな影響を与える事となりました。